

今月のニュースでは、あいあいセンターのセンター長でいらっしゃる宮崎千明先生から教えて頂き、『発達障害とは～考え方と対応の基本』というテーマで皆様にご紹介したいと思います！！ご多忙にも関わらず、宮崎先生が原稿をお寄せ下さいました。

発達障がいとは～考え方と対応の基本

福岡市立心身障がい福祉センター 小児科 宮崎千明

「発達障がい」という言葉がよく使われるようになり、それを心配して相談に来られる子どもたちも増えました。福岡市のあいあいセンターと東西の療育センターに新規に相談に来られる子どもたちは年間1,400人を越えます。これは出生数の1割近くになり20年前の3.5倍です。発達障がいにはいろいろな種類がありますが、代表的なものについて簡単に述べます。以前から使われている診断名と最近使われるようになった診断名(「障害」から「症」に代わっている)を並べましたが、基本的にはほぼ同じ意味です。

知的能力障害／知的発達症、知的障害、精神遅滞： 知的な発達に遅れがあり、言葉の理解や表出、思考や推理の力の発達がゆっくりで、発達指数(DQ)や知能指数(IQ)が目安となります。生活の力より概念的な力の方が弱い傾向にあります。一步一步あせらずに教えていくことが大切で、体験を通して学ぶことも多いでしょう。発達障害者支援法は知的障害を含んでいませんが、新しい国際的な診断分類では「神経発達症群」として、知的発達症と以下に述べる従来の発達障害の両方を含みます。

注意欠如多動症(障害)、ADHD： 不注意(気が散りやすい)、多動(動きが多い)、衝動性(刺激にパッと反応する)で診断します。年齢が上がると多動性は落ち着く傾向がありますが、不注意は残りやすいです。その子の年齢や知的な力を考慮してもなお上記の特徴が顕著で、かつ複数の場面でみられる場合に診断します。刺激を整理し、エネルギーをうまく発散すると落ちつきやすいようです。主に学齢期以降ですが、薬が使われることもあります。

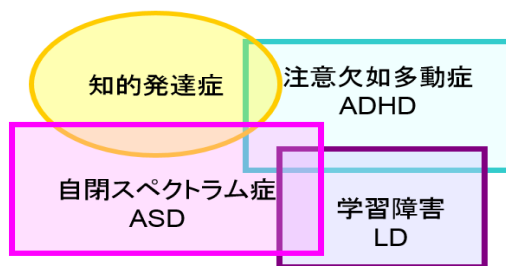
限局性学習症、学習障害(LD)： 知的な遅れがないにも関わらず、ある特定の学習分野に困難さが目立つ子どもたちです。読み障害、書き障害、計算障害などが挙げられ、情報の受け取り方や処理の仕方に得意、不得意の凸凹が目立ちます。その子が受け取りやすい方法で情報を与える工夫する(得意なチャンネルを生かして苦手さをカバーする)ことが必要です。

自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害(ASD)、広汎性発達障害(PDD)： 対人関係や社会的なコミュニケーションが苦手で、興味が偏りやすく、こだわりがみられ、しばしば感覚が敏感で、突然の大きな音や触る感覚、匂いなどに敏感な子どもも多いです。幼児期には視線が合いにくく、指さしや言葉が遅れがちです。服、食事、手順、道順などに自分なりの決まりごとを持ちがちで、経験したことのない場所や事柄に不安を感じやすく、ルーチンが好きです。思い通りにならない時のかんしゃくが強く、パニック(どうしていいかわからない状態)になることもあります。これらの特徴には濃淡があり、またDQやIQも個人によって違いが大きく、「スペクトラム」は虹の色のように多様であることを示しています。知的に遅れのない高機能自閉症やアスペルガー症候群(言葉の遅れがない自閉症群)も多く、今はそれらを含めて全体を自閉スペクトラム症としています。

発達性協調運動症(障害)： 手足に麻痺はないにもかかわらず、体全体を使った運動や手先の細かい操作(例えば、片足立ちや片足ケンケン、箸の使い方、書字)がとても難しい子どもたちです。そのほかにも吃音(どもり)やチックも「神経発達症群」に入っていますが、程度や症状の経過は人それぞれなので、一概には言えません。

発達障がいはその子が元々持っている特性と考えられていて、育て方が原因ではありませんが、育て方の工夫はたくさんあります。
 また、発達特性は1人の中で複数重なることがありますし(※図)、本人の中での成長・変化がみられます。発達障がいは治るのかと聞かれることがありますが、「発達」については「育つ、育てる」という言葉が合います。子どもが歩き始めたり言葉が出始めた時、私たちは「治った」とは言わず、「育った」と言うからです。
 発達障がいの子どもたちも発達していきます。ただ、そのペースやパターンはユニークです。苦手さだけに注目しすぎずに、得意なこと、好きなこと、よいところを育てながら、苦手さをカバーしていきましょう。(著者注:診断名には「障害」の文字を用いました。)

(※図) 知的障害・発達障害



原稿をお寄せ下さった宮崎先生のご紹介です！

【略歴】

昭和54年 九州大学医学部卒業
 昭和60年 同大学院修了(医学博士)
 福岡市立こども病院や九州大学病院小児科勤務を経て、
 平成9年～ 福岡市立心身障がい福祉センター主査
 平成10年～ 福岡市立あゆみ学園 園長
 平成14年～ 福岡市立西部療育センター長
 平成26年～ あいあいセンター長(現職)



平成9年から小児科医として広く乳幼児の発達相談や療育に携わっている。予防接種の専門家としても知られる。
 平成25年福岡県知事感謝状、平成30年福岡県知事表彰(福祉業務従事)

【所属学会】

日本小児科学会・日本小児神経学会・日本小児保健協会・日本コミュニケーション障害学会・日本自閉症スペクトラム学会・日本重症心身障害学会・日本こども虐待防止学会・日本発達障害連盟・九州学校保健学会・日本ワクチン学会・日本感染症学会・日本神経感染症学会など

【講師】

★九州大学歯学部非常勤講師(障害福祉)
 ★中村学園大学非常勤講師(病弱特別支援教育)

【委員】

★福岡市障がい者等地域支援協議会
 ★同発達障がい者支援協議会 など

【宮崎千明先生の主な著書】

★「子どもの発達援助の実際と福祉」(中央法規 2005)
 ★「乳幼児の発達障がいの気づきと対応—療育センターでの経験」(教育と医学 2012)
 ★「開業医の外来小児科学」(南山堂 2013)
 ★自閉症スペクトラムの早期診断と療育の抱える課題
 (第16回日本自閉症スペクトラム学会特別講演録2017年) その他多数